

住民意向調査速報版（大熊町・南相馬市）の公表について

原発事故による避難者等に対する住民意向調査について、大熊町、南相馬市の住民を対象とした調査結果を取りまとめました。

1. 調査概要

大熊町

調査主体	復興庁、福島県、大熊町
調査対象	世帯の代表者（5,135世帯）
実施期間	令和3年11月1日～11月15日
回答者数	2,185世帯（回収率42.6%）

南相馬市

調査主体	復興庁、福島県、南相馬市
調査対象	世帯の代表者（4,000世帯）
実施期間	令和3年11月1日～11月15日
回答者数	2,613世帯（回収率65.3%）

2. 調査結果のポイント

別紙1～2のとおり

本件連絡先
（原子力災害復興班）担当：栗原、高橋
電話：03-6328-0250（直通）

大熊町調査結果のポイント

- ・ 将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・ 復興庁、福島県、大熊町の共同調査は 9 回目。

(1) 帰還の意向

既に大熊町で生活している	2.5% (2.5%)
戻りたいと考えている (将来的な希望も含む)	13.1% (9.6%)
まだ判断がつかない	23.3% (26.2%)
戻らないと決めている	57.7% (59.5%)

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(R2.9)結果

(2) 帰還を判断するために必要なこと (上位抜粋)

病院、道路、公共交通などの社会基盤 (インフラ) の復旧時期の目途	67.0% (72.9%)
どの程度の住民が戻るかの状況	42.4% (40.2%)
住宅確保への支援に関する情報	41.8% (37.8%)
放射線量の低下の目途、除染効果の状況	39.9% (41.6%)
帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報	39.1% (43.1%)

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

(3) 戻らないと決めている理由 (上位抜粋)

すでに生活基盤ができているから	60.7% (59.1%)
避難先の方が、生活利便性が高いから	42.0% (42.0%)
医療環境に不安があるから	37.7% (43.5%)
生活に必要な商業施設などが不足しているから	32.9% (39.0%)
家が汚損・劣化し、住める状況ではないから	25.0% (30.5%)

※帰還の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答

南相馬市調査結果のポイント

- ・ 将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・ 復興庁、福島県、南相馬市の共同調査は 4 回目。

(1) 帰還の意向

既に南相馬市に戻っている	65.3% (63.2%)
戻りたいと考えている (将来的な希望も含む)	4.4% (5.8%)
まだ判断がつかない	8.7% (9.0%)
戻らないと決めている	11.9% (13.4%)

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(R1.12)結果

(2) 帰還を判断するために必要なこと (上位抜粋)

医療機関 (診療科) の状況	53.5% (63.6%)
介護・福祉施設の状況	38.7% (43.5%)
商業施設の状況	35.9% (40.2%)
原子力発電所の安全性に関する情報 (廃炉作業の状況)	31.8% (36.0%)
公共交通機関の状況	24.4% (29.0%)

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

(3) 戻らないと決めている理由 (上位抜粋)

すでに恒久的住宅を取得したから	55.4% (48.1%)
すでに生活基盤ができているから	53.7% (44.7%)
医療環境に不安があるから	41.6% (38.4%)
避難先の方が、生活利便性が高いから	40.9% (40.6%)
原子力発電所の安全性に不安があるから	34.6% (36.8%)

※帰還の意向で「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答